

群馬県嬭恋村と中区との友好交流協定を締結します

つまごいむら 嬭恋村 出身で横浜開港期に活躍した「なかいやじゅうべい中居屋重兵衛」氏（横浜市中区本町4丁目で生糸商を経営）

についての嬭恋村と横浜市での顕彰を契機に、中区は嬭恋村との友好交流を行ってきました。

今回、より一層の交流を図ることを目的に協定を締結します。

〈協定締結式〉

- 1 日時：平成28年2月12日（金）
午後1時20分～午後1時50分（予定）
- 2 場所
嬭恋村役場（群馬県吾妻郡嬭恋村大字大前110）
- 3 出席者
嬭恋村 くまがわ さかえ熊川 栄 村長 中区 三上 章彦区長 他



嬭恋村の愛妻の丘

〈協定事項（骨子）〉

- 1 中居屋重兵衛氏の顕彰及び顕彰に携わる市民団体同士の交流に関する事
- 2 それぞれの自治体で開催されるイベントへの参加や相互広報に関する事
- 3 防災に関する情報交換や大規模災害を想定した相互応援の検討に関する事
- 4 その他相互に有益な交流に関する事

〈交流により期待する効果〉

- 1 シティプロモーション・地域経済の活性化
- 2 相互訪問等による自らの地域の魅力再発見・ふるさと意識の醸成
- 3 災害時の相互支援
- 4 職員の人材育成

〈中居屋重兵衛氏について〉

江戸時代の豪商・蘭学者・火薬の研究者（シーボルト等に師事）

本名：黒岩撰之助（中居屋は屋号）。文政3年（1820年）上野国吾妻郡中居村（現：群馬県吾妻郡嬭恋村三原）に生誕。文久元年（1861年）死去。

江戸に進出し上州生糸を輸出していたが、横浜が開港した安政6年（1859年）に横浜に移転した。取引量は全輸出生糸の過半を超え、多くの外国商人が生糸を買付けに訪れた。本町4丁目に建設した店は「銅御殿（あかねごてん）」と呼ばれるほど豪華であった。



中居屋重兵衛氏
肖像画（想像画）

《これまでの交流内容（主なもの）》

- ・昭和 33 年（1958 年）の横浜開港 100 周年の際、横浜市長より「故中居屋重兵衛殿」へ感謝状贈呈
- ・昭和 55 年（1980 年）に J R 万座・鹿沢口駅（まんざ・かざわぐちえき）前に、中居屋重兵衛顕彰碑を建立（横浜市から 50 万円を寄附）※碑文は横浜開港資料館 西川副館長
- ・平成 15 年（2003 年）に店舗跡地（関内桜通 日本生命横浜本町ビル）に記念碑を建立（中区へ寄贈）
- ・平成 20 年（2008 年）以降、中区民まつり「ハローよこはま」に参加（婦恋村 P R ・キャベツ等販売）
- ・平成 26 年（2014 年）・27 年（2015 年）、村長が市・中区役所を表敬訪問
- ・平成 27 年（2015 年）、開港記念会館で『横浜三塔の日記念シンポジウム「国際都市ヨコハマ物語」ーシルク・開港記念会館・生糸貿易商人ー』を開催し、中居屋重兵衛顕彰会事務局長（中居屋 7 代目）がパネリスト参加
- ・中居屋重兵衛顕彰会と横浜開港資料館（西川副館長）との顕彰・交流
- ・平成 27 年（2015 年）、中区長が、婦恋村役場・村議会を表敬訪問など



中居屋重兵衛顕彰碑



「ハローよこはま」での様子

《婦恋村概要》

群馬県の西北部に位置し、東は長野原町・草津町に、西・南・北の三方は長野県に接している。村の東部を除く外周には、浅間山・湯の丸・吾妻山（四阿山）・白根山などの標高 2,000m 級の山々が連なり、日本の大分水嶺をなしている。

夏でも涼しく年間の平均気温は 8℃前後で、1 日の温度差が大きい。特に気温・湿度は避暑に最適であり、最近では浅間高原 1 帯が 1 大別荘地としても脚光を浴びている。

中心的な産業は農業とサービス業である。農業ではキャベツを中心にした高原野菜の高冷地栽培が盛んであり、キャベツの村として有名である（夏から秋にかけて生産・出荷されるキャベツの量は日本一を誇る）。近年では出荷量のみならず、その品質においても更なる向上を目指し J A 婦恋を中心に減農薬・減化学肥料栽培などに取り組んでいる。

観光業を中心としたサービス業は雄大な景観や温泉などの自然環境と軽井沢・草津温泉・志賀高原の中間に位置する好立地条件に恵まれ、近年では就業者数においても農業を上回る形で推移している。



キャベツ畑



スキー場

	人口	世帯数	面積
婦恋村	9,916 人	3,710 世帯	337.58 km ²
中区	148,346 人	78,346 世帯	20.85km ²

※平成 27 年 9 月 1 日現在

お問合せ先		
中区区政推進課長	落合 明正	Tel 045-224-8120